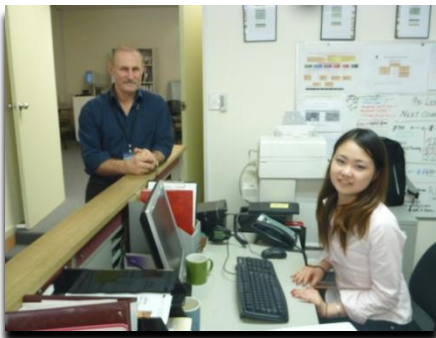


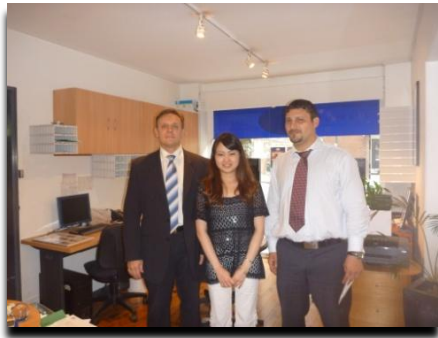
まず、海外ではインターンシップは日本ほど一般的ではなく、「無給で働く意味がわからない、経験を得たいならアルバイトで給料もらいながら働いた方がいいよ」との友達からの意見もあったけれども、なぜ私が海外でインターンシップをしたのかというと無給でもいいから外国で働くことに好奇心があったこと。ビジネスパーソンと直接知りあいになり、お話をして接していくことで新たな視野も加わり、自分の人生を考えるのに役立つだろうと考えたからです。

私はオーストラリアでセキュリティ関連会社と不動産でインターンシップをしました。

セキュリティ関連会社についてですが、警備員を雇い訓練そして派遣を担う会社です。ここで私に与えられた仕事はパソコン入力業務のみで、人と接したかった私にとってショックでした。一日中パソコンと向き合い、与えられた業務をこなす日々でした。それにしても、責任の持った仕事ではなく事務員の補助をしているのか邪魔をしているのかと思う時もありました。でもこれこそが職場だと実感。日本でのインターンシップは企業側が学生のためにプログラムを組んでくれていることもあり事業の一環としている会社もある。自分の経験値を増やす自分への取り組みなのに企業側も考えてくれるのはかなり恵まれた環境にいたことに気がつきました。その会社の内部で働く従業員数人ですが全員がプロフェッショナルで一人一人が会社を支えている自覚を持って働いており、自分の勤退の時間は自分で決めるような自由さの中に個人個人の意識の高さを見ることができました。



その次に、ひと月インターンシップしたのが不動産でした。ここは実は知人のご主人さまが経営する会社で、無料で働いてくれるならどのくらいでもいいということでインターンシップをすることになりました。そこでは受付のアシスタントとして業務にあたらせていただきました。それから社長とは物件と一緒に視察



しに行くこともあり、時には不動産のオークションのための展示会の手伝いをしました。

また社長と話す機会も多く、なぜ不動産経営をしようとしたのかの話から結婚に至る話までしましたし、不動産について無知と知っているにもかかわらず私の意見（オークションをかけている物件について）を聞いてくれました。また、彼のすごいところはすべて自分です。他の二人の従業員が動く以上にタフに顧客と話し合い、広告作りから窓ふきまで人に任せず自分でします。理由は簡単で会社を守るためです。私に対して毎日唱えるようにしておっしゃいました。

STAY ON THE WALL, STAY ON THE BALL (集中しなさい)



私の強みはどの環境にもなじめ、我慢強いところでしたが、それは社会人ではなく未熟な学生なのでそれでは責任もった仕事はあたえられません。これから会社に属して働いていくには経験がなくてもプロにならなければいけません。練習すれば誰にでもそうなる力はあると思います。そのプロ意識を培ってくれるのがインターンシップであり、アルバイト、学校生活だということに改めて思い出させてくれた機会でした。